

# 曾於文藝

うたごよみ

## 俳句

### 末吉俳句会

小雨降る苑に分け入り青き踏む

池田 安起徒

目印の連翹れんぎょうの黄や川の端

古藤 まゆ美

幹肌の少し紅おび初桜

宮路 生天子

### 大陽俳句会

菜の花や古き写真の父と甥

岩重 みどり

鍵盤を走る「情熱」春の闇

福村 よう子

陽炎のうごめく川面ひかりけり

逆瀬川 節子

## 短歌

### 末吉短歌会

星々に手の届きそうな寒き夜の

路地の奥よりカレーの匂い

宝蔵 弘二

## 題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

「もう、いやだ」とぐずる幼の小さき胸  
問ふてもみたし「もう」の経過を  
森岡 ちどり

わが猫の秘密通路を野良猫も  
覚え顔出す真夜中の怪  
長倉 佳津子

### 大陽短歌会

北の国へさも旅したようなチョコレート  
をバレンタインに贈るコロナ禍  
竹内 娃子

ウグイスの初鳴き聞こえる朝  
重ね着脱ぎすて地下足袋をはく  
安藤 フチ子

付き添いの娘と通う病院の  
花の香りに癒されて居る  
米澤 正敬

### 財部短歌会

マスクつけ紅も差さずに外出す  
いつまで続くかこの自粛の日  
杉村 リカ

戦争に行かない人が声上げる  
非核三原則いま見直しを  
児玉 次雄

老いの身にコロナ花粉に黄砂まで  
家ごもりしてがまんを学ぶ  
井上 澄子

## 薩摩狂句

にがごい会末吉支部  
肉にくく好このん 野菜嫌やせぎれ亭主ととあ  
骨ほねと皮かわ 鈴木 一泉

野菜作やせつくい 鋏くわは其所そのあつち  
動いごかん爺じ 古川 一幹

野菜作やせつくや したこちやね婆ばが  
下知げばしつ 桐野 奈世

野菜作やせつく業いい 老人夫婦おんじよしつ  
頑張きばちよつ 浜田 一好

### 大陽薩摩狂句会

九十四才くんじゆしで 免許更新きんか  
健さかし兄貴あによ 津留 群志

歯でしが大事だいじち 総入がん歯がゆ磨みがつ  
健さかし母親はは親 小倉 りんりん

百才ひゃつさいで まだ現役げんえつち  
健さかし医者いしや 西山 美代子

健さかし子を 育おやけた爺婆じばん  
米と野菜やせ 境 すやすや